

きずな

2026 **3** March

今号の題字

串間市立市木小学校 6年
島田 燦次さん



市木ふるさと音頭



サーフィン教室



さつまいもでスイーツ作り



川下り教室

こんにちは！串間市立市木小学校(水谷浩文校長・児童数31名)です。宮崎県最南端エリアに位置し、校区には白い砂浜の続く「石波海岸」や、芋を洗って食べる猿がいる「幸島」等があります。

特色は、保護者や地域の方々とも小学校の連携によるさまざまな体験学習があることです。プロのサーファーを講師として開催するサーフィン教室、市木川からSUPやカヌーで海を目指す川下り教室、小学校で育てた芋を使ったスイーツ作り体験等、たくさんアイデアを形にしてみました。昨年は、児童が詩を考えるところから始めた「市木ふるさと音頭」を約1年かけて完成させました。地域のお祭りや行事で、子どもも大人も楽しく踊り続けていければと思っています。

【PTA広報委員長 水野 千乃】

サーフィン教室や川下り体験等
家庭・地域・学校でアイデアを実現

CONTENTS

- 2・3 宮崎県PTA研究大会都城市・三股町大会 令和7年度 表彰者・団体
- 4 第71回日本PTA九州ブロック研究大会 宮崎大会 日程・会場案内
コラム「親がめ子め」
- 5 宮崎県小・中学校PTA新聞コンクール
- 6 トピックス「西都市立穂北小学校」
編集後記



宮崎県PTA連合会
ホームページ



編集・発行：宮崎県PTA連合会

発行責任者：二見 志信

宮崎市旭1丁目3-10 婦人会館2階 Tel:0985(22)3081 FAX:0985(20)9443

http://www.miyazakikenpta.com E-mail: mken-pta@io.ocn.ne.jp

第67回 宮崎県PTA研究大会へ都城市・三股町大会

令和7年12月6日(土)
都城市総合文化ホール 大ホール

大会スローガン

未来を育む、人間力ある大人たちの挑戦
子どもに頼りにされる大人を目指して



第67回 宮崎県PTA研究大会 都城市・三股町大会
未来を育む、人間力ある大人たちの挑戦
～子どもに頼りにされる大人を目指して～
●主催/宮崎県PTA連合会 ●主賓/都城市PTA連絡協議会 三股町PTA協議会



表彰式



アトラクション

令和7年12月6日(土)、第67回宮崎県PTA研究大会 都城市・三股町大会が実施されました。

「宮崎花ふぶき一座」による賑やかなアトラクションが始まり、客席からの練り歩きに出席者の拍手も自然と大きくなっていました。

功労者表彰では、8団体と個人10名の方々が功績を称えられました。

諸塚村立諸塚小学校の研究発表では、世帯数減少の中でPTAをどうしていくかが大きな課題となっており、保護者だけでなく地域の方にも準会員として学校行事に協力していただいているとのことでした。校内で「逃走中」を模したイベントの実施、PTA開催のアジャタを「九州玉入れ選手権in諸塚」と題し、諸塚村観光協会をも巻き込むなど楽しいイベントにする工夫をしていました。現在

だけでなく未来のこと、子どもや孫のことまで考えていこうとしている姿勢がとてもおもしろく興味深い発表でした。

都城市立山之口中学校の研究発表では、さまざまな負担軽減を考慮した取組が紹介されました。「PTA新聞の廃止」「希望参加制の奉仕活動」「PTA総会の書面決議化」など、社会情勢や各家庭・

学校の実態に合わせた活動・参加の仕方があって良いのではという考えでした。どの学校でも抱えている問題で、さまざまな決断を実施し、現代ならではの問題に真摯に向き合っている印象でした。

講演「波瀾万丈物語」では、講師の米良美一氏が自身の生い立ちを交えながら美しい歌声を披露されました。会場中の心が掴まれた時間でした。

次年度は宮崎で日本PTA九州ブロック研究大会が開催されるにあたり、キャラバン隊が賑やかにPRをして本大会の締めとなりました。

研究発表

諸塚村の子どものみらいに願いを込めて

諸塚村立諸塚小学校 PTA会長
甲斐宣人

本大会と九州PTA Aブロック研究大会 福岡市大会において、発表した内容を紹介します。

令和8年度末をもって閉校し本校と統合する荒谷小学校は、保護者のみならず、



地域の方々が参加する数々の行事が長年営まれてきました。なかでも運動会は、保護者・地域の方々の参加があり、まさに「地域の運動会」としての役割を担う学校と地域を結ぶ大きな行事として存在しています。

「荒谷小学校独自の文化や体験活動を継承すること」は、荒谷小保護者の願いであると同時に、本校PTAの課題です。PTA活動に生かせる取組はないのか、運動会は今まで通りでよいのか、どのようなPTA活動を行っていけばよいのかなど、たくさん検討課題が残されています。

令和8年度はそれらの課題を一つ一つクリアして、新たなPTA活動の在り方を模索する大切な一年になることでしょうか。未来の子ども達のために、「今」このときを大切に過ごし、よりよいPTA活動をめざしていこうと思います。

研究発表

PTAとしての参画くやりがい

都城市立山之口中学校 PTA会長
小濱真樹

本大会において、山之口中学校PTAが取り組んできた、PTA活動の仕組み化について発表させていただきました。

本校が前々会長

から数年かけて取り組んだスリム化の理由は「会員の皆さんが参加しやすく、負担にならないようなPTAにしたい」という思いでした。そのために、省略できること・簡略化することを意識して活動してきました。



○体育大会の5月開催への移行

学校から意見を求められ、熱中症等を考慮し、PTAとしても賛同しました。

○PTA総会(対面方式)の書面決議のみへの移行

毎年のPTA総会の参加率と準備にかける労力を総合的に判断し移行しました。

○奉仕作業の希望参加制

各ご家庭の事情等を踏まえ、参加しやすいうようにしました。

○PTA新聞の廃止

作成にかかる労力を考え、年2回→年1回→廃止としました。

PTA活動も時代の流れに沿うようにしてできるだけ負担が少なく、参加しやすいものにしていかなければならないと思います。子ども達が楽しく学校へ登校していくのを見送れることが親としての幸せです。PTAの活動が子ども達の幸せにつながっていく、それが活動の理由ややりがいにつながっていくと思います。

実行委員長

吉永健一

令和7年12月6日

(土)、第67回宮崎県PTA研究大会都城・三股大会)が開催されました。当日は県内各地より約500名の参加者を迎え、盛会のうち無事終了することができました。

本大会は、大会スローガン「未来を育む、人間力ある大人たちの挑戦」のもと、研究テーマ「子どもに頼りにされる大人を目指して」を掲げ、子どもたちの健やかな成長を支える大人の在り方について、参加者一人ひとりが改めて考える貴重な機会となりました。

研究発表では、東臼杵郡諸塚村立諸塚小学校ならびに都市立山之口中学校の皆さまにご発表いただき、日頃の実践や地域・家庭・学校が連携した取り組み

について、具体的に示唆に富んだ内容が紹介されました。

また、講演では「波瀾万丈物語」と題し、講師に米良美一氏をお迎えしました。ご自身の経験をもとに語られる言葉の数々は参加者の心を強く打ち、大人として、そして保護者として子ども達にどう向き合っていくべきかを深く考えさせられる講演となりました。

本大会で得られた学びや気づきを今後のPTA活動や家庭・地域での取り組みに生かし、子ども達にとってより良い教育環境づくりにつなげていきたいと思



吉永実行委員長

おめでとうございます!

PTA活動の発展・充実に寄与

●令和7年度●
表彰者・団体

日本PTA全国協議会表彰

- 団体● 日南市立東郷小中学校PTA 高原町立後川内小中学校PTA
- 個人● 森山慎作 (宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校PTA) 竹原英智 (串間市立大東小学校PTA)

宮崎県社会教育優良団体表彰

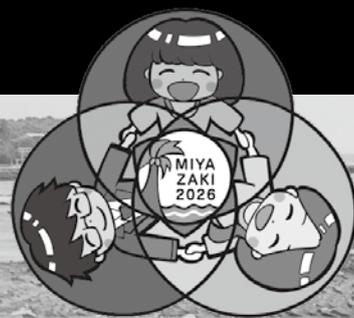
- 団体● 国富町立木脇小学校PTA

九州ブロックPTA協議会表彰

- 団体● 小林市立細野小学校PTA 諸塚村立荒谷小学校PTA 宮崎市立生目台東小学校PTA 日之影町立宮水小学校PTA 美々津のこどもを支える会 (美々津小学校PTA) 都城市立山之口中中学校PTA
- 個人● 竹原英智 (串間市立大東小学校PTA) 友碓将徳 (延岡市立東海小学校PTA) 岩切靖代 (宮崎県校長会) 太田智章 (日南市立北郷小中学校PTA) 齋藤 禎 (小林市立野尻中学校PTA) 安藝隆典 (西都市立三納小中学校PTA)
- 感謝状● 森山慎作 (宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校PTA) 黒木剣二郎 (宮崎市立大塚中学校PTA)

宮崎県PTA連合会表彰

- 団体● 宮崎市立小松台小学校PTA 宮崎市立住吉中学校PTA 日南市立大窪小学校PTA 串間市立北方小学校PTA 都城市立上長飯小学校PTA 都城市立山之口中中学校PTA 西都市立妻中学校PTA 日之影町立宮水小学校PTA
- 個人● 長友佳織 (宮崎市立青島中学校PTA) 西 圭字 (日南市立吾田中学校PTA) 作本 希 (串間市立串間中学校PTA) 中村 絵美 (都城市立西中学校PTA) 吉藤 勇生 (小林市立永久津小・中学校PTA) 大門 哲也 (えびの市立真幸小学校PTA) 阿 萬 一 皓 (西都市立都於郡中学校PTA) 富井 健司 (延岡市立恒富中学校PTA) 本 田 貴 規 (門川町立門川小学校PTA) 佐藤 尊文 (高千穂町立岩戸小学校PTA)



宮崎大会

大会スローガン

新しいつながりの一歩を
ひなた
宮崎の地から

— 子供の未来を明るく照らすSUNと! —

心のつながる
宮崎大会にしましょう!



大会実行委員長
持原 将之

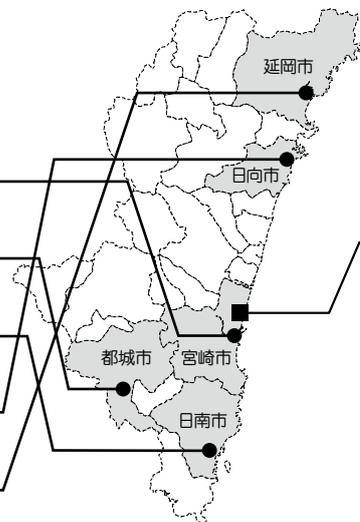
研究主題

人と人とのつながりを生み出す
持続可能なPTA活動

日程・会場のご案内

大会1日目 分科会 10月24日(土)

【分科会】研究領域	会場(開催市)	要請人数
【第1分科会】組織・運営	メディキット 県民文化センター (宮崎市)	1,000
【第2分科会】家庭教育	都城市 総合文化ホール (都城市)	1,000
【第3分科会】人権教育	日南市 南郷ハートフルセンター (日南市)	500
【第4分科会】教育環境	日向市 文化交流センター (日向市)	700
【第5分科会】広報・地域連携	延岡総合文化センター (延岡市)	800



大会
2日目 全体会

10月25日(日)

シーガイア
コンベンション
センター

組んでいこうと思います。

今年度は榎原中学校にボランティアアサークル(YOV)ができ、榎原神社例大祭の「神輿押し」「榎原さん踊り」にも参加しました。これからも地域の歴史と文化を大切にして栄えていけるよう、地域とともに学校全体で取り組んでいこうと思います。

今年度は榎原中学校にボランティアアサークル(YOV)ができ、榎原神社例大祭の「神輿押し」「榎原さん踊り」にも参加しました。これからも地域の歴史と文化を大切にして栄えていけるよう、地域とともに学校全体で取り組んでいこうと思います。

「いらっしやいませ。かき氷はいかがですか。」

弾けんばかりの生徒の笑顔。この日は年に一度の「七夕まつり」。みんな生き生きとして、授業とはまたひと味違った表情をしています。地域コミュニティの場所「よわらっ子」で毎年行われるこのお祭りは、地域の方々の支援を受けながら、榎原中学校全校生徒が企画・運営する恒例の行事です。店内の飾り付けやかき氷・フライドポテトなどの食べ物の提供、各種ゲーム、お昼にはそうめん流しも実施します。未就学児から高齢者まで幅広い年齢層の方々や保護者の方々に来ていただき、子ども達も嬉しそうです。

榎原中学校に来て二年が経とうとしていますが、子ども達が自然に「地域に恩返しをしたい」「地域が少しでも元気になるように」という言葉を口にするように、いつも感心させられます。地域や保護者の方々が「子ども達のために」を合い言葉に協力してくださる姿を見ているからかもしれません。

日南市立榎原中学校 教頭 森弘晃

コラム 三輪車
輝け「よわらっ子」
地域とともに





この日表彰式が行われ、小・中学校より各4校が受賞しました。最優秀校を受賞した木城町立みどりの杜木城学園は、「作る楽しさを知り、自分たちが作った広報紙を早く読みたいと思えるようになった」と意識の変化を語りました。延岡市立東海小学校は、「記録と記憶を残せることが紙の新聞の価値ではないかと思う。今後読む人の心が温まるような体温の伝わる新聞を目指していきたい」と抱負を述べました。

講評

毎日新聞宮崎支局長

加藤学

小学校の部最優秀賞の「可愛岳」は一つのテーマを見開きで展開、漫画の吹き出しで先生の一言を紹介するなど、目を引く見出しと見やすいレイアウトが光りました。学校での読み聞かせや給食試食会、防災講座など、こまめに現場に足を運び、取材。地域と密接に連携する様子も記事化されていました。

中学校の部最優秀賞の「Green・9」も、やはり読みやすいレイアウトが高評価を得ました。駐在所の巡査部長へのインタビューでは子どもたちからの質問コーナーを設けてひと工夫し、卒業生5人とその保護者に聞いた「母校(じこ)紹介」では、どんなパソコンを買ったのかなど読者の「知りたい」に答える内容でした。経費削減で紙の新聞の発行も厳しくなっていると聞きます。まず表紙にいい写真を使い、手に取ってもらおう。ページをめくれば読者の関心を引き参考になる記事がある——。最優秀作をはじめとする入賞作は、いずれも作り手の熱があふれる新聞でした。

【令和7年度 第46回宮崎県小・中学校PTA新聞コンクール入賞校】

最優秀賞

小学校

「可愛岳」
延岡市立東海小学校

中学校

「Green・9」
木城町立
みどりの杜木城学園

小学校		中学校	
最優秀賞	可愛岳 延岡市立東海小学校	最優秀賞	Green・9 木城町立みどりの杜木城学園
優秀賞	いしがき 日南市立飢肥小学校	優秀賞	大樹 日向市立財光寺中学校
優良賞	財風 日向市立財光寺小学校	優良賞	あけぼの 宮崎市立本郷中学校
努力賞	やえしお 延岡市立北浦小学校	努力賞	すみよし 宮崎市立住吉中学校

応募総数 26校 (小学校15校、中学校11校 ※合同校2校含む)

●令和7年度●「国内研修事業」参加者について

日本PTA全国協議会では、全国の中学2年生を対象に国内の青少年教育施設において、集団宿泊を通じて、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や国際平和への視野を広めるための研修事業を行います。

宮崎県PTA連合会からは、厳正なる抽選により推薦者を2名決定いたしました。

橋本 遥伊 さん (宮崎市立本郷中学校)
黒木 莉菜 さん (日向市立東郷学園)

- 期間 令和8年3月25日(水)～3月28日(土) 3泊4日
- 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

◆入賞おめでとうございます!◆

第47回

全国小・中学校PTA広報紙コンクール

(応募総数 小学校290校 中学校183校 WEB版15校)



佳作

『しろやま』
日向市立
塩見小学校PTA



佳作

『あけぼの』
宮崎市立
本郷中学校PTA

◆ 優秀広報紙作品集の紹介

第47回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの作品集ができました。広報紙づくりのコツなども掲載しています。お申し込み・お問い合わせは、日本PTA全国協議会ホームページへお願いします。

1冊 1,881円(税込)



第74回日本PTA全国研究大会



奈良大会

1日目(分科会) 令和8年8月21日(金) 奈良県内8会場

2日目(全体会) 令和8年8月22日(土) 天理大学 柚之内第一体育館

地域のよさを生かし、ふるさとを愛する心を育む教育 地域・PTAと一体となった穂北小学校の取組

〔西都市立穂北小学校〕（押川 由美恵校長 児童数122名）

穂北小学校は今年で創立135年目を迎える歴史ある学校で、児童数122名、PTA戸数87戸の小規模校です。尾鈴の峰を仰ぎ、一ツ瀬川の恵みを受ける西都市の北部に位置し、雄大な自然に抱かれた環境を最大限に活かしながら、地域との連携を深めた教育活動を展開しています。

〔J・A・PTAと連携した米づくり〕

本校の5年生は、保護者やJ・A青年部で組織された稲作実行委員会の全面的な協力を得て、学校田をフィールドとした本格的な稲作体験を行っています。春の田植えから秋の稲刈りまで、実際に米作りを体験することで、日本の農業や食料生産の大切さ、そして地域の営みに対する理解を深めています。苦労して刈り取ったお米は、穂北地区のふれあい市にブースを設け、販売にも挑戦しました。丹精込めて育てたお米の品質と子ども達の元気な呼びかけが相まって、当日は多くの地域住民が来場し、販売開始からわずか10分ほ



5年生がお米を販売した穂北地区ふれあい市

どで完売するといふ大盛況となりました。この販売体験は、子ども達が生産者としての達成感を味わうとともに、流通や経済活動の一端を学ぶ貴重な機会となりました。さらに、収穫したお米の一部は、保護者と一緒に餅つきを行い、つくたてのお餅を皆でおいしくいただきました。地域と協力して作り上げた収穫物を分かち合うことで、食への感謝の気持ちと、家族・地域との結びつきをより一層深めています。



保護者と一緒に行った餅つき

【穂北づくり協議会との連携】
本校では、地域に受け継がれる伝統文化を学ぶ機会を大切にしています。その一つが、今年で70回目という記念すべき節目を迎えた伝統の「たこあげ大会」です。この行事は、穂北づくり協議会の全面的な支援を受けて実施されて



穂北づくり協議会の指導のもと親子で行った凧作り

います。子ども達は協議会の方々の指導のもと、下学年はエイ凧、上学年は六角凧作りに挑戦します。そして、1月には悠々と流れる一ツ瀬川の河川敷を舞台に、製作した凧を大空へ舞い上げる「たこあげ大会」を開催しました。尾鈴の峰を背景に、広々とした空間で、子ども達が元気いっぱい活動するこの大会は、地域の風物詩ともなっています。



手作りの凧を空高くあげた「たこあげ大会」

【伝統的な白太鼓踊りの継承】

穂北地区の伝統芸能である下水流白太鼓踊りは、6年生が継承し、8月の穂北まつりや10月の運動会で勇壮に披露されています。地域の誇りであるこの踊り力を強く舞う子ども達の姿は、郷土愛を育み、地域の方々にとって何よりの楽しみとなっています。



運動会で6年生が披露した白太鼓踊り

【教頭 多田宏】

編集後記

今号で編集委員を卒業します。「きずな」に携わって6年。県内各地の小中学校の行事やPTA活動を知ることでもでき、毎号楽しく編集をしていました。編集に関わっていただいた全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

田中

年齢を重ねると時間が早く感じると言われますが、そう感じる様々な理由とメカニズムがあるようです。何かと理由をつけて挑戦することが減ってきたこの頃。1年が早いと言っよりも楽しい1年だったと言えるように、日常に多少の変化をつけ、挑戦の心を忘れずに過ごしたいと思います。

西尾

編集委員として駆け出しの1年間でした。書き手の思いや願いが読者により伝わるように、記事の言葉一つひとつにこだわった毎回の熱い編集会議。編集同人に感謝するとともに、執筆してくださった皆様にも心よりお礼申し上げます。御愛読ありがとうございます。

佐藤

会場スタッフに喫煙マナーの注意を受けているPTAがいました。指摘が納得いかなかったのかスタッフに煙を吹きかける様子に周囲が困惑していたという話を聞き残念でした。せつかくなら子どもどもの見本となる行動をしたいのだと自戒を込めて記しておこうと思います。さて、私、今号にて卒業です。4年間勉強になりました。ありがとうございました。

西村